美水連覇

18年ぶり2人目快挙

２連覇を果たした美水は優勝カップを手に笑顔

北海道ミッドシニア選手権〈最終日〉

◇3日◇栗山・エムズGC（6238㍎、パー72）◇出場57人

単独首位発進の美水正則（66＝札幌ベイ）が3オーバー75で回り、通算147で逃げ切り2連覇を果たした。2連覇は第1、2回大会を制した浜谷展光（故人）以来18年ぶり。2打差の2位に佐藤常貴雄（71＝オークウッド）と上田光夫（66＝釧路風林）が入った。マッチングスコアカード方式により、上位4人に日本ミッドシニアゴルフ選手権（11月11日開幕、千葉・京葉CC）の出場権が与えられた。

横綱

表彰式で美水は優勝カップを高々と掲げた。「正直勝てるとは思っていなかった」というほど2連覇はうれしかった。

25歳からゴルフを始め道内のアマゴルフ界に数々の金字塔を打ち立ててきた。80年代には道アマチュアゴルフ界の〝横綱〟として君臨。82、84、85、88、89年と道アマ選手権を制した。5度の制覇は、小門幹夫と並ぶ史上最多タイを誇る。昨年65歳になり初めて出場した同大会で初優勝したが満足はしていなかった。尊敬する元ハッピーバレーのオーナー中江武氏に「どの試合（大会）でも1回くらいは勝てる。優勝も、全国出場も2回、3回続かなければ本物ではない」と言われた。それ以来、1つの大会での優勝を必ず2回以上目指した。

経験

8㍍の強風の中、百戦錬磨経験が生きた。前半を終え57人中56人が風に苦しみオーバーパープレー。美水は「低い球を打ち、パープレーで回ること」を心掛けた。前半は37の1オーバー。11番まで2位タイに終わった佐藤に首位を明け渡したが気にしなかった。佐藤と上田がスコアを崩す中、パーを拾った。圧巻は最終18番グリーンの13㍍のパーパットを見事カップに沈めた。

腰痛に苦しんで8年前に手術し、歩行ができない時期もあった。今年に入り頸椎（けいつい）を痛め左手に力が入らず、さらに5月に右足半月板を痛め、6月からラウンド再開するほど体はボロボロだ。今年のラウンド回数も今大会で6回目。腰痛を考慮し歩くプレーはこの大会の2日間のみ。それでも同一大会での複数優勝にこだわった。

目標

同大会での連覇は第1、2回大会を連覇した浜谷展光氏以来の18年ぶりの快挙も「全然知らなかった」とあっさり。体は本調子でないため全国大会出場は辞退するが「次の目標はグランドシニア（出場条件70歳以上）で優勝すること。でも連覇は無理かな」。4年後の夢に向かって美水の戦いは続く。

ベスト(67)

◆美水正則（よしみず・まさのり）1947年（昭22）3月15日、札幌市生まれ。25歳からゴルフを始めた。現在のオフィシャルハンディー2。ドライバーの平均飛距離は250㍎。得意なクラブはドライバー。ベストスコアは67。趣味は庭いじり。家族は妻と2男1女。血液型A。170㌢、85㌔。

最多タイ５度

◆道アマの優勝回数

美水正則（82、84、85、88、89年）と小門幹夫（86、90、91、92、94年）が過去最多タイとなる５度の優勝を飾っている。４勝は高橋勝成（69、70、71、73年）、高橋成司（74、77、79、87年）、坂上忠（99、01、02、03年）、多田久志（60、64、66、67年）、福井慎治（97、00、05、09年）の５人。

◆北海道ミッドシニア最終日成績◆

順	選手名	（所属）	通算	1R	最終	（アウト、イン）
＋3 ❶	美水正則	札幌ベイ	147	72	75	37、38
＋5 ❷	佐藤常貴雄	オークウッド	149	73	76	35、41
	上田光夫	釧路風林	149	73	76	37、39
＋9 ❹	高橋朗	函館KG	153	78	75	39、36
	鎌田敏雄	帯広	153	75	78	38、40
＋11 ❻	橋場勝利	フォレスト旭川	155	80	75	38、37
	前道正司	サホロ	155	74	81	40、41
＋12 ❽	石岡利昭	札幌	156	77	79	40、39
＋13 ❾	工津輝雄	オークウッド	157	79	78	42、36
	高橋武弘	ニセコ	157	77	80	41、39
	山口茂	エムズ	157	75	82	41、41
＋14 ⓬	広島征治	北海道G	158	75	83	42、41
＋15 ⓭	岡嶋正明	ハッピーバレー	159	79	80	39、41
	星野文男	サホロ	159	77	82	40、42
＋16 ⓯	小野守	グレート札幌	160	77	83	40、43
	樋口末吉	岩見沢雉ケ森	160	80	80	40、40
	亀田茂生	チサン	160	77	83	38、45
	小山勝夫	伊達	160	74	86	44、42
＋17 ⓳	沢田石勝	帯広白樺	161	77	84	46、38
＋18 ⓴	金子賢一	カイト&フォックス	162	79	83	43、40
	細川要一	クラーク	162	79	83	44、39
	興村勝人	函館KG	162	78	84	40、44
＋19 ㉓	菅原正秋	北海道G	163	80	83	40、43
	宮川政則	エバーグリーン	163	82	81	40、41
	矢野岩男	北海道G	163	79	84	41、43
＋20 ㉖	松山一廣	帯広	164	83	81	38、43
	織田達朗	札幌	164	80	84	45、39
	工藤要造	シェイクスピア	164	80	84	40、44
	土井一之	シャトレーゼマサリカップ	164	79	85	44、41
＋21 ㉚	朝野源吾	白金	165	80	85	39、46
	仲俣博康	旭川メモリアル	165	82	83	43、40
	奥村修	ハッピーバレー	165	81	84	40、44
	平川達夫	ザ・ノースカントリー	165	78	87	44、43
＋22 ㉞	若松茂朗	旭川国際	166	83	83	40、43
	伊東秀治	シェイクスピア	166	83	83	44、39
	玉田忠	エムズ	166	79	87	44、43
	松本勉	千歳空港	166	81	85	40、45
	森篤次	恵庭	166	76	90	46、44
＋23 ㊴	高野茂	札幌国際	167	83	84	42、42
	大津百年	岩見沢雉ケ森	167	83	84	45、39
	西本祥宥	帯広白樺	167	81	86	44、42
	沢田憲一郎	千歳	167	78	89	45、44
	小川博司	オークウッド	167	74	93	49、44

上位４人に日本Mシニア出場権

◆最終日78で４位タイまで追い上げたがマッチングスコアカード方式で全国出場を逃した鎌田敏雄（65＝帯広）　自分の下手さ加減がわかった。16番の50㌢のパーパットを外したときにこれで終わったと思った。

◆今年のグランドシニア選手権で優勝し、ミッドシニアに挑戦した橋場勝利（69＝フォレスト旭川）　今日は75で回れてよかった。初日の最終ホールのダブルボギーがなければ、まずまずだったが…。

表彰状を受け取る佐藤

上田は1番で正確なティーショットを放った

佐藤 2打及ばず 上田

11番まで首位

１打差２位スタートの佐藤は２打足りず２位タイに終わった。６月のグランドシニア選手権で２位に入った勢いそのままに前半を唯一１アンダー35で回り11番まで首位に立った。「このままいくんじゃないか」と思うほど順調だった。

しかし、ゴルフの魔の手は後半に待っていた。11、12番と連続ボギーとした。続く13番パー３は「風を読むのが難しかった」というように６番アイアンで打ったがショートし、２打目も寄らず３パットの痛恨のダブルボギーをたたいた。

「全国でもがんばりたい」と最後は笑顔をみせた。全国グランドシニア（10月28日、高知・Ｋｏｃｈｉ黒潮ＣＣ）への手応えもつかんだ。

15番痛恨ダボ

初優勝を狙った上田は２打及ばず２位タイに終わった。１番パー４でいきなりバーディーを奪い波に乗ったかに見えたが、５番パー４、９番パー４のボギーで前半37で折り返した。

後半は14番パー４でバーディーを奪い流れをつかみかけたが、「15番のダブルボギーが今日のすべて」と落胆した。ティーショットをフェアウエーに運んだが、木がスタイミーになった。２打目を３ウッドで打つもフェアウエーの木に当たり万事休す。

道東の大会などでは優勝経験が豊富だが、連盟の大会ではいまだ縁がなく２位止まり。それでも「全国大会はがんばりたい」と気持ちを切り替えた。

初挑戦４位タイ

高橋朗

○…初日78で18位タイの高橋朗（65＝函館ＫＧＣＣ）は75で回り、４位タイに入った。初めての挑戦で全国切符を手にした。前半は風が強く思い通りのゴルフができずスコアが39と苦しんだ。それでもパットがさえた。初日は３パットが３回だったが、最終日は１回のみ。最終18番はグリーン奥から20㍎のアプローチを決めバーディーフィニッシュし、全国をたぐり寄せる一打となった。06年日本アマ以来の全国だが「まずは予選通過」と意気込んだ。